

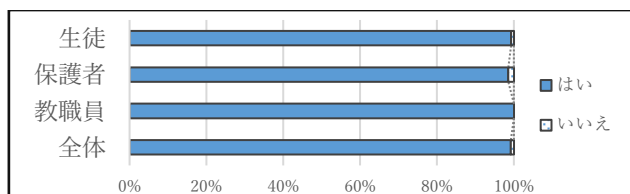
令和6年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

生徒対象の質問は「あなたは・・・」、保護者対象の質問は「お子様は・・・」、教職員対象の質問は「生徒は・・・」等で表記している。

1 (1) 先生方の教え方はわかりやすいと思いますか。

・生徒、保護者、教職員ともに、ほぼ全員が「はい」と回答しました。

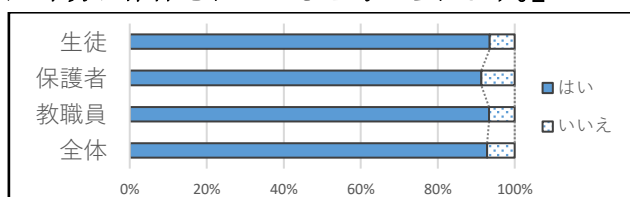
『習熟度別授業や ICT 機器の活用、学習支援員の配置など、きめ細やかな学習指導の充実を図ることで、生徒にとってわかりやすい授業を提供できていると考えられます。』



2 (1) 1年間の授業時数は、十分に確保できていると思いますか。

・生徒、保護者、教職員ともに、9割以上が「はい」と回答しています。

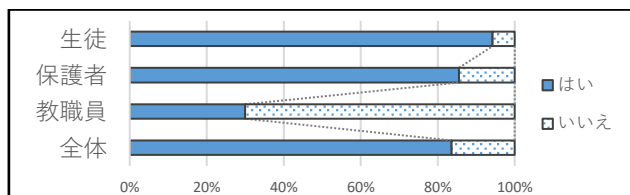
『45分の2コマ連続授業や ICT 機器の利用によって、無駄を省いた授業が展開されており、1年間の授業数が十分に確保されていると考えられます。』



3 (1) 「必修科目」「履修」「修得」といった言葉を理解していますか。

・生徒・保護者の約9割、教職員の3割が「はい」と回答しており、両者の認識に大きな差が見られます。

『決められた出席時数を満たすことを履修、加えて、決められた成績を満たすことで修得となり、修得することにより単位が認められます。必修科目をとらなければ卒業することはできません。科目選択ガイダンスや年度末の成績表を利用し、教職員は単位制システムを生徒・保護者に正確に認識してもらう必要があります。』

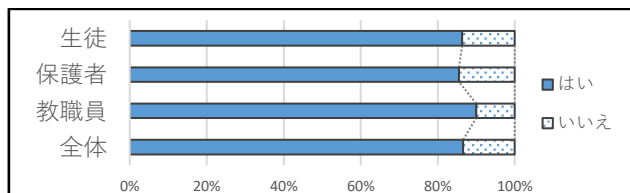


令和6年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

4（1）基礎学力は、向上していると思いますか。

・生徒、保護者、教職員ともに、8～9割が「はい」と回答しました。

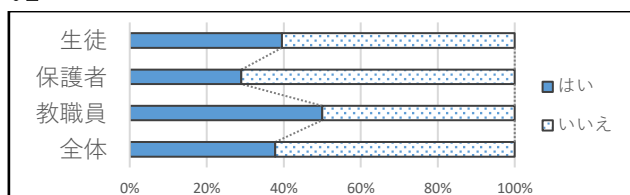
『昨年とほぼ同程度です。今後、習熟度別クラスによる少人数教育のメリットを生かした学習指導にさらに工夫を加え、基礎学力の定着を生徒に実感させる授業を展開する必要があると考えます。』



4（2）家庭学習を行っていますか。

・生徒の4割、保護者の3割、教職員の5割が「はい」と回答しました。

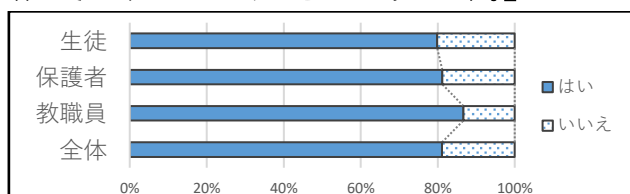
『昨年と比べて、「はい」の割合が三者ともに約10ポイント減少しました。家庭学習の習慣づけを、教員からのアナウンスや生徒の自主性に任せるのは現実的ではありません。教職員が生徒の実情に合った適切な課題を準備し、継続して取り組ませる工夫をしていく必要があると考えます。』



4（3）授業でICT機器（タブレット等）を活用することで、学習内容の理解が進みますか。

・生徒、保護者、教職員ともに、約8割が「はい」と回答しました。

『今年度から新たに加えた質問項目ですが、一人一台端末やICT機器を活用した授業実践などによって、ある程度の効果が実感できていると推察します。端末を持っていない生徒に対しても貸し出しを行うなど適切な対応をしたことが結果につながっていると推察します。一方、約2割の「いいえ」の回答も看過できません。生徒・教職員ともに、ICT機器の運用スキルには個人差があります。最低限のスキルを身につけるための方法や実施時期を検討しながら学校全体で取り組んでいくべきだと考えます。』

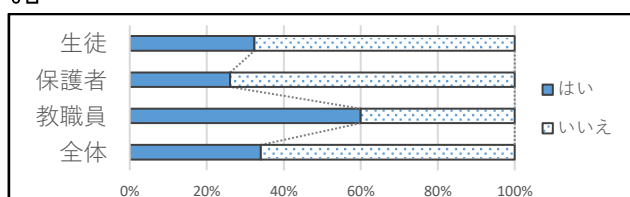


令和6年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

5 (1) 読書をする習慣が身についていますか。

・生徒、保護者ともに、約3割が「はい」と回答しました。また、教職員は「読書習慣の定着を促したか」の問いに、約6割が「はい」と回答しました。

『生徒・保護者と教職員との認識及び結果に大きな差があります。昨年と比べて、「はい」の割合が、前者は2～8ポイント減少し、逆に後者は5.2ポイント増加しています。つまり、取り組みに対して期待される成果が伴っていないことがわかります。SNSによって情報を得ることが圧倒的に多い現在、手軽に視聴できる動画ではなく、紙媒体がいかに重要なツールであるかを生徒に理解させる工夫が必要です。読書指導は、全教科・科目、学校図書館、ホームルーム活動、生徒指導・進路指導などが協力し合い、学校全体で組織的に取り組む課題だと考えます。』



総合所見

アンケートの結果から、本校の学習指導は、概ね生徒・保護者の理解を得られていると考えます。具体的には、習熟度別クラスによる少人数教育、ICT機器を活用した授業、グループ学習や探究型授業など、基礎学力の定着を図るための取り組みが有効に機能しています。今後、学校設定科目を含む選択授業による生徒の進路希望に合わせた学習や、「みどりベース」を最大限活用した中学校までの学習内容の学び直しなど、生徒の実態に沿った多様な学びについて、さらに内容を精査していく必要があります。そして、本校での学習が、卒業後の人生と関わる「キャリア教育」と結びついた実効的なものになることが求められます。読書の推進と合わせて取り組むべき課題であると考えます。